

第 70 号

令和4年7月1日

ふすま同窓会本部



ふすま同窓会百年記念祭を終えて

ふすま同窓会 会長 野 村 一 芳 (人文1回)

山形は、桜桃が終わり紅花の季節を迎えています。紅花は半夏生に1輪を咲かせると言いますが、今年も見事な紅の花が見られそうです。会員の皆様には、お元気でお過ごしのことと思います。コロナは、未だ終息していませんが、大学構内も学生が行き交い久々に活気が戻ってきております。総会も2年間中止しましたが、今年は漸く開催の運びとなりました。

さて、昨年の「ふすま同窓会百年記念祭」については、残念ながら式典のみの開催となり懇親会を心待ちしていた多くの会員の皆様には申し訳なくお詫び申し上げます。高橋節実行委員長の下、懇親会出席予定者に対する記念品や募金等の協力をして頂いた方々への御礼も、心を込めた対応をして頂き無事終了することができました。皆様の御協力に心から感謝申し上げます。

記念祭事業は、記念碑の建碑やふすまりフレッシュルームの開設など概ね実行する事ができました。その結果剰余金が生じたので、同窓会館屋根外壁事務室の補修を行なう他、今後の記念祭の準備基金への積み立てに充て、また同窓会活動の課題である参加会員の増強も検討していきたいと考えております。各支部でも、参加の呼びかけを行っておりますので皆様も是非呼びかけて下さい。

コロナ禍で人との繋がりが希薄になり、ウクライナの戦争で不安感が広がっております。このような時こそ同窓の絆で声を掛け合い元気に過ごしたいものです。少しずつ日常が回復していますが、一日も早いコロナの終息とウクライナ戦争の終結を願っております。

開 催 予 告

令和4年度 ふすまの日・ふすまの夕べ

日 時 令和4年 10月21日(金) 18:00～
会 場 ホテルメトロポリタン山形(山形市香澄町一丁目)
023-641-2611

※各理事経由でパーティー券購入方式

令和5(2023)年度 ふすま同窓会総会予告

－期日(予定)－
令和5年5月20日(土)

－場 所－
ホテルメトロポリタン山形
(山形市香澄町一丁目)

※題字：野村一芳会長 背景：チョウカイフスマの花

令和4年度 ふすま同窓会総会報告

1 概要

令和4年5月21日(土)、ホテルメトロポリタン山形において令和4年度ふすま同窓会総会が開催された。

コロナ禍の影響を受けて、支部長会議は、総会に先立っての5月18日(水)にオンラインで行った。

総会では、野村一芳会長(人文1回)の議長のもと会議が進められた。議事に先立ち、百年記念祭の高橋節実行委員長(人文2回)より、百年記念祭の実施等について報告がなされた。続いて、阿部慎一事務局長(人文4回)より令和3年度の事業報告、決算報告があり、齋藤知行監事(文理15回)の監査報告の後に承認された。次に、令和4年度の事業計画(案)、予算(案)については、阿部事務局長より提案があり、いずれも案のとおり議決された。

なお、百年記念祭の剰余金処分について、下記の提案があり、案のとおり承認された。

(1)同窓会館基金積立金へ5,300,000円

70年記念祭で建設した同窓会館の屋根・外壁、事務室の補修

(2)記念祭積立金へ1,000,000円

今後の記念祭対応

(3)会員増強検討費 55,639円

同窓会活動への参加者増加策の検討

2 令和3年度事業報告

- 4月10日(土) 百年記念祭実行委員会(第11回)
- 24日(土) 常任理事会(東部公民館)
- 5月15日(土) 支部長会議(オンライン)
- ふすま同窓会総会(中止)
- 6月15日(火) ふすま同窓会報(第69号)発行
- 9月10日(金) ティーデマン・ふすま賞選考委員会
- 11日(土) ティーデマン碑供養祭(山寺立石寺)
- 24日(金) 支部長会議(オンライン)

- 10月16日(土) ティーデマン・ふすま賞受賞者講演会(オンライン)
- 10月30日(土) ふすま同窓会百年記念祭<記念式典>(ホテルメトロポリタン山形)
- 11月7日(日) 第11回安達峰一郎記念世界平和弁論大会協賛(山形大学)
- 12月4日(土) 第49回模擬裁判支援(山形テルサ)
- 18日(土) 百年記念祭実行委員会(第14回)(ホテルメトロポリタン山形)
- 1月1日(土) ふすま通信(第11号)発行
- 3月25日(金) 人文社会科学部・理学部卒業式<卒業・修了祝賀会は中止>

3 令和4年度事業計画

- 4月23日(土) 常任理事会
- 5月21日(土) ふすま同窓会総会(ホテルメトロポリタン山形)
- 7月1日(金) ふすま同窓会報(第70号)発行
- 9月 ティーデマン・ふすま賞選考委員会
- 9月10日(土) ティーデマン碑供養祭(山寺立石寺)
- 10月21日(金) ふすまの日・ふすまの夕べ
- 22日(土)~23日(日) 八峰祭、ティーデマン・ふすま賞授賞式(山形大学)
- 11月6日(日) 第12回安達峰一郎記念世界平和弁論大会協賛(山形大学)
- 12月9日(金)~10日(土) 第50回模擬裁判支援
- 1月1日(日) ふすま通信(第12号)発行

4 その他

記述したとおり、総会は5月21日(土)に行われたが、懇親会の方は残念ながら中止となった。

コロナ禍の影響を考慮してのやむを得ない措置であり、一日も早い終息を願うばかりである。

副会長 戸石健二(人文1回)



理学部長就任のご挨拶



理学部部長 並河 英紀

平素より理学部の教育・研究へのご支援を賜り、誠にありがとうございます。令和4年4月より理学部長を務めております並河と申します。この機会をお借りし、COVID-19の影響なども含めて理学部近況をご報告申し上げます。

令和4年4月8日、3年ぶりとなる山形大学入学式がやまぎん県民ホールにおいて挙行されました。COVID-19感染拡大防止の観点から、第1部（医学部、工学部、農学部）と第2部（人文社会科学部、地域教育文化学部、理学部）に分け、保護者の出席はなくオンラインで式典を配信するwithコロナ時代へ向けた新しい様式での開催です。また、入学式前日には、理学部新入生保護者へ向けた保護者説明会も3年ぶりに開催いたしました。完全オンラインのZoomウェビナーでの開催としましたが、多くの保護者に御出席頂けたことは従来の対面型とは異なったメリットでございました。大学での教育活動も活動制限緩和が徐々に進行しております。本学では学生同士が顔を合わせ教育を受ける対面授業の意義を重視し、4月1日以降は感染症対策を徹底したうえで対面授業を原則とした教育を再開しております。理学部では実習・フィールドワークなど学生同士の協同作業や議論などアクティブラーニングを伴う講義も多くありますが、必要な対策を施し安心して講義に臨める体制を整えております。

この様にwithコロナへ向けかつての大学教育を取り戻しつつある中、玉手学長から「山形大学将来ビジョン」が打ち出され、その中において、山形大学がこれから目指す姿が「つなぐちから」と表現されています。知識集約型社会の「ハブ」となること、新たな価値を生み出す地域コミュニティの「コア」となることが、本学が目指す「つなぐちから」とされています。ともすれば学術重視で地域・社会との連携が希薄と思われるがちな理学部が目指すべき「つなぐちから」が何かであるか、明確に示す時期に迫られています。もちろん、これまでも理学部主担当教員が「ハブ」や「コア」となり、地域・社会の皆さまとの協働活動が行われてきました。例えば、(1)上山市との連携による園芸作物栽培支援システム「かるほく」の開発、(2)子供靴「瞬

足」で有名なアキレス株式会社との連携による優れた特性を持つ材料候補発見のためのプログラム開発、(3)NPO法人ガリレオ工房及び山形県立図書館と三者連携協定による「理科読マイスター」養成プログラムの設置、(4)世界最大規模の素粒子物理学の研究所であるCERNにて進行するプロジェクトへの日本代表機関としての参画など、自治体・企業・団体・研究機関との連携において幅広い分野で存在感を示しています。

また、2022年4月には、山形大学地域共創STEAM教育推進センターが発足し、地域の子供たちへSTEAM（S=Science, T=Technology, E=Engineering, A=Art, M=Mathematics）教育を届けるための仕組みづくりへも理学部主担当教員が多数関与しています。山形という地域社会に理学部が存在する意義、これを明確に示すことができなければ、自然淘汰される存在になってしまいます。旧制山形高等学校と山形大学文理学部からの長い伝統の中で培われてきた理学精神を礎としつつも、時代と共に変遷する地域・社会の課題解決に対応できる教育・研究・運営体制を整えることが、地域コミュニティの一員として理学に関する高等教育の責務を負う理学部の使命であり「つなぐちから」の基盤になると考えています。

理学部をますます発展させるよう引き続き努力してまいります。ふすま同窓会の皆様におかれましては、今後ともご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

略 歴

- 1977年1月 島根県松江市に生まれる
- 2003年9月 神戸大学大学院自然科学研究科
博士後期課程 中途退学
- 同 年10月 北海道大学大学院理学研究科
助手
- 2011年4月 山形大学理学部 准教授
- 2014年4月 山形大学理学部 教授
専門は非平衡科学

支部の現状報告

仙台支部

(会員数) 仙台ふすま会会則第5条・本会の会員は仙台市を中心とし、宮城県内に在住する次の者とする。

- (1)山形高等学校の卒業生および在学した者
- (2)山形大学文理学部・人文学部・理学部・人文社会科学部の卒業生及び在学した者

このことからすれば、現在の対象会員は2,483名(令和3年)となるが、実際の会員との線引きが曖昧にされているので、実会員数と大きく落差がある。

支部会員として名簿登録している人数は、現在300名強、うち会費拠出者は80名、実質行動人数は3割弱である。組織は「数が力」であることが大事。

(役員) 会則第9条・会長、幹事は総会において選任する。副会長・理事は、卒業年次等を考慮し、会長が委嘱するとある。

現在、副会長は委嘱4名(うち辞退と病欠が2名)理事委嘱14名(うち辞退と病欠が6名)と少人数だが、ここでは役員一人ひとりの活動に期待がかかる。

(会議) 会則第11条・本会の会議は総会及び理事会とし、総会は年1回、理事会は必要に応じて開催する。

新型コロナの影響を受けて活動自粛となってここ2年間は開催に至っていなかったが、運営にブランクを抱え、心配の種となっていた。令和4年度、ここにきてコロナ禍は、感染対策を講じつつ、社会活動や、日常生活も平常時に戻す流れが出きているので、去る4月に理事会、6月に総会開催にこぎ着けた。改めて、支部活動の活性化や意識の強化という課題に向き合い、結集していきたいと思う。

(事業) 会則第3条・本会は会員相互の親睦をはかることを主たる目的とする。第4条・本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。(1)懇親会の開催 (2)ふすま同窓会本部その他との連携交歓 (3)会報の発行 (4)その他必要な事業と定める とある。

新型コロナ禍により中断しているものの、仙台・山形支部交流、囲碁クラブ、ゴルフ会、新春コンサート、講演会等、再開に向けて、行動を起こすこととしたい。

諸々の課題を抱えた現状にあるが、まずは「組織は数の力で成り立つ」ことから、実質会員の増強と、一人ひとりが活発に行動する雰囲気づくり等、100年の歴史を持つ「ふすま同窓会」の存在意義を噛みしめつつ、令和4年度を明るく過ごしたいものである。

事務局長 宮城洋三(文理5回)

3年ぶりの総会

山形支部

令和4年度支部総会は5月21日(土)に開催しました。過去2年はコロナ禍のため総会を開催できず、止むを得ず、臨時役員会を開き、事業や予算・決算を協議し、その結果をもって支部総会の決議とみなすこととしていた。

今年の開催には会員37名の出席があり、令和5年度事業と収支決算が承認され、令和4年度の事業計画案と収支予算案が承認された。役員の補選として、佐藤清人監事(人文10回)が退任し、後任に渡辺将尚氏(人文25回)が選任された。

今年度の事業を掲示すると下記のようなになる。

談話会・・・年3回開催

◎第1回は6月に貸し切りバスの小旅行・・・県内名所旧跡を巡り、見聞を広めながら、車中では他愛のない世間話もまた一興。今年は山形市の隣町中山町の国指定史跡柏倉家住宅見学(往時の豪農の住宅を見物)や寒河江市の史跡慈恩寺の参拝が主なものとなる。

◎第2回は11月に同窓会館会議室での座学である。会員あるいは大学の先生から専門分野をわかりやすく「講義」をうけるものだが、今年のテーマはまだ決まっていない。

◎第3回は来年2月開催である。第2回同様の座学であるが、丁度節分の頃となり参加者全員で「恵方巻」を食す一夜でもある。第2回、第3回には現役学生の招待もある。

仙台交流いも煮会

毎年9月に本部主催のティーデマン先生の供養祭が執り行われるが、終了後、山形支部と仙台支部が交流の活性化を図るため、両地域の秋の風物詩の「いも煮会」を交互に行うもの。今年は山形支部が幹事である。山寺の奥地、面白山での開催を想定している。

以上の事業を恙無くやり遂げたいと考えている。特に若い会員の参加を増やしたい。会員諸氏の御提言を待っています。



平成29年小旅行(亀井勝一郎先生文学碑前にて)

支部長 奥山隆夫(文理18回)

東京ふすま会活動報告

東京ふすま会

令和3年度活動報告

令和2年度に引き続き、コロナの影響でリアルの行事開催は懇親芋煮会だけでした。稲村英夫広報部会長（文理16）を中心に高円寺事務所常勤者の編集作業により会報「乾坤」を年3回発行できました。令和3年度の新しい取組みとしてオンラインの常任理事会を伊藤英孝総務部会長（理2）の尽力により2回開催しました。令和3年度の活動を振り返ってみたいと思います。

1. オンライン常任理事会

令和3年4月24日 20名参加

令和3年12月4日 19名参加

常任理事会終了後にオンライン懇親会を開催

2. 総会

令和3年8月1日発行の会報第150号で書面報告

3. 会報「乾坤」

「乾坤」は東京ふすま会の機関誌として行事・会合の記録、会員相互のコミュニケーションを編集方針として、昭和41年5月に創刊されました。現在、16頁立てを基本に年3回発行しています。

令和3年8月1日に第150号記念特集号、12月1日に第151号、令和4年3月31日に第152号を発行しました。

会報は東京近郊だけでなく全国へ発送できるので、山形が大好きな卒業生は、東京ふすま会へご入会いただき会報をご愛読いただければ幸いです。

4. 懇親芋煮会

令和3年11月18日に東京湾を臨む若洲海浜公園で16名が参加し第12回懇親芋煮会を開催しました。寒河江から取り寄せた里芋での本格派の芋煮会です。懇親芋煮会は若手会員の増加を目的に企画されましたが、参加者の半数以上が後期高齢者です。当初の目的と違い、自称：青年が集まりとなっています。参加者全員の1分間スピーチで交流を深めています。

山高1名、文理9名、人文2名、理4名 計16名



5. ミニふすま会

理学部と人文学部の1回生を中心とした「りじん会例会」が令和3年11月28日に那須白河で開催されまし

た。ふすま百年記念祭の講演が予定されていた佐藤夏雄氏（理1）が参加し、令和4年東京ふすま会総会での記念講演を快諾いただきました。

杉並区荻窪周辺在住の会員が集まる「荻友会」がます。ふすま百年祭記念事業として高円寺事務所に所蔵するビデオのDVD化に取り組みましたが、相馬義嗣参与（文理11）五十嵐吉郎常任理事（理1）の事務局に加え、「荻友会」の佐藤輝和氏（文理13）藤井斉氏（文理13）のご協力により制作できました。世代別・地域別に開催されているミニふすま会の情報がありましたら、ぜひ高円寺事務所までご連絡をお願いします。

6. 高円寺事務所

東京ふすま会の活動拠点として山高諸先輩の寄附により平成3年6月に開所しました。J R中央線高円寺駅及び地下鉄丸の内線東高円寺駅から徒歩10分と便利な場所です。毎週火曜日の10時から17時まで事務局が常駐しておりますので、近隣にお越しの際はお気軽にお立ち寄りください。

令和3年度来所者数：延183名

住所：東京都杉並区高円寺南一丁目34番9号

第二高円寺ダイヤモンドマンション311号

TEL&FAX 03-5378-5005

E mail tkyfusumakai@tkyfusumakai.jp

ホームページ <http://www.tkyfusumakai.jp>

7. 校友会関連

令和3年12月5日山形大学卒業生等首都圏ネットワーク総会に笹谷仁則副会長（人文1）、菊地信幸副会長（理1）の2名が参加しました。

令和4年3月5日山形大学同窓生セミナー（ZOOM）に齋藤彰常任理事（理18回）が参加しました。

令和4年度活動報告と主な予定

1. 常任理事会

4月23日港区三田に於いてリアルの常任理事会を開催参加者16名

2. 理事会・総会

5月28日学士会館に於いて3年ぶりに理事会総会を開催 参加者41名

第13代会長に笹谷仁則氏（人文1）が就任

記念講演 佐藤夏雄氏（理1）

「困難を乗り越え始動した日本の南極観測」

3. 今後の行事予定

9月 第33回見学会

10月または11月 第13回懇親芋煮会

1月 新年懇親会

事業部会長 齋藤 彰（理18回）

西の国から

関西支部



今年の支部総会は2022年1月23日(日)、新型コロナオミクロン株蔓延の中、昨年に続きオンライン方式で開催いたしました。今回も塚原繁美さんがMCを務めてくれたおかげで、同窓生が少ない関西支部ならではのアットホームな会になったと自負しております。New face 3名が加わり6名、総勢17名に参加頂きました。本部から野村会長はじめ3名、校友会樋口事務局長、現役学生サークルYai!の2名、米沢工業会4名、鶴窓会1名です。今年もvirus畏るべしということをつくも実感しました。

昨年11月コロナが落ち着きを見せていたことで、支部のオンライン交流会でFace to faceの支部総会を申し合わせましたが、里村が自宅の2Fの階段から落下しひどい打撲傷を負ったので急遽参加者6名とmailで相談し、オンライン方式に変更をお願いしました。関西ふすま同窓会長年の会場がコロナのため閉店し、新しい会場探しや価格交渉が無理だったので、現在のオミクロン株蔓延からすると、この変更はまさに怪我の功名でした。

はじめに里村から2021年活動報告、2022年活動計画、2021年収支報告、2023年総会会場の案の提示を行いました。次に校友会樋口事務局長より写真提示で「母校の今」の紹介があり、本部野村会長からは5年の準備期間をかけた100年記念祭の様子や苦労話の報告、続いて参加者が自己紹介、近況報告を行い、そして、現役学生サークルYai!の2名から活動状況として、2冊のfree paper発刊に加え、学生目線による県議会に意見具申したことの発表がありました。

関西ふすま会モットーは「誰もが得意技を活かし、若人を主役にする場に」です。今回の支部総会で里村は、塚原様を筆頭に関西支部存続を可能にすると思われるmemberにやっと巡り合えたと感じました。

支部長 里村義征(文理14回)

※紙面の関係で全文を掲載できませんでした。ふすま同窓会ホームページ支部情報・関西に全文掲載しましたのでご覧ください。

「ふすま同窓会」北陸支部の再出発の時

北陸支部

北陸の地にも春が通り過ぎていった。黄色の花をエネルギーに咲かせていたタンポポも、いつのまにか灰色の綿帽子をかぶった姿になっている。春の強い風にも逆らわず種子となって、行先も定まらないままに飛んでいった。人間も「断捨離」すれば余計なものにとらわれず、身軽になって春の一日を謳歌できると、自らの人生をタンポポに重ねる今日この頃だ。

さて、小さな群れではあるが私達の北陸支部「ふすま会」は存続できるのだろうかという思いがよぎる。三年前に出現したコロナ禍の影響で私達の生活や精神までも弱ってしまった。この事をいち早く心配していたのは支部長(松田博男氏 文理18回卒数学・金沢市)であり、又、長い間、会の実務的運営に尽力されている松岡史和氏(文理16回卒数学・金沢市)であろう。何とか会員の輪を保とうとしているのがよくわかる。

4月に松田支部長、松岡氏に金沢で会う機会があったが、昼食を共にし、雑談に花をさかせた。その後、金沢の街や、一部装いをあらたにした金沢城内を客人のように丁寧に説明してくれた。私は(文理16回卒化学・富山県在住)であるが、長年、会に在籍していながら会への出席回数や協力度が少なかったことを恥じた。

コロナ禍もひと段落し、いまこそ「ふすま会」再生の時である。5月に入り松田北陸支部長より封書(2022.5.12付け)がと



どいた。やはり山形大学「ふすま同窓会」北陸支部の再開についてである。三年目ということで北陸三県在住の方々全員に連絡を取るという内容であった。過去の同窓会の記念写真9枚が添付されている。若いころの話や、近況を語りあいながら親交を深めたいと記載してある。(状況をみながら今秋に支部懇親会開催予定)

ふすま同窓会報にも次のように記してある。「伝統を紡ぎ未来に続く」それがテーマなのである。このことを念頭に私たちの心を一つにし、会の発展のために頑張らましよう。

蓮井信吉(文理16回)



北海道支部を目指して

札幌支部

気候も良く爽やかな北海道です。是非おいで下さいという季節ではありますが、コロナ禍が収まる事はなく、外出も恐る恐る、マスク着用の日常です。そんな状況ですので、当支部も格別の催しもできず、日が過ぎております。

ただ、以前から函館支部より、支部としての活動が困難になり、札幌支部と一緒にやれないかとの申し入れがあり検討しておりました。釧路支部も、旭川支部も、同様の状況にあります。それではと、本部から送付のあった第20号の名簿をもとに、道内全域の、ふす

ま会会員の皆様に連絡して相談することに致しました。名簿から拾った435名に、木内先輩（誠に大変な事を、お願いし有難うございました）の、お力を借り、返信用の葉書を入れて、4月11日に発送したところでした。

どの位の会員から返事が来るか、楽しみにして、毎日待っているところです。結果がわかり次第、札幌支部の皆さんと相談し、本部にもご相談する積りですので、よろしくお願い致します。

皆様、ご健康に留意して、お過ごしください。

支部長 島田良廣（文理15回）

学生・学部等への支援・協力事業

ふすま同窓会では、毎年、「学生後援・大学交流費」の支出項目で年間 250 万円を予算計上し、様々な支援事業を展開してきております。しかし、優秀学生の表彰、安達峰一郎世界平和弁論大会開催・模擬裁判への支援は行われたが、昨年度もコロナ禍で多くの支援事業が行われませんでした。

第11回 安達峰一郎世界平和弁論大会

山形大学小白川キャンパス人文社会科学部1号館301講義室において、ふすま同窓会が後援し、山形大学都市・



地域学研究所、山辺町、NPO法人山形の魅力再発見プロジェクトが主催する、「第11回安達峰一郎記念世界平和弁論大会」が、令和3年11月7日(土)に開催された。コロナ禍で開催が危ぶまれたが応募された作品が審査により選ばれ予選を通過した中学生5名、高校生6名が弁論大会に臨んだ。最優秀賞には、中学生の部で山形市立第三中学校3年大貫祐輔さん、高校生の部で敬愛学園高等学校2年鈴木悠由さんが受賞した。

テーマは、大貫さんの祖父が農業を営んでおり、演題を「美しい水田・米作りからの学び」と掲げ、稲作とSDGsを結びつけ論じた。小林さんは「エコも濁ればエゴになる」を題し、電気自動車の普及がエコにつながるという考え方に、生産過程での二酸化炭素の排出など問題点などをあげ疑問を投げかけた。

第49回 模擬裁判

第49回模擬裁判公演会が、12月4日に山形テルサホールにて開催された。



今回の公演で取り上げたテーマは「同性婚」であった。同性婚に関する議論は、現在、日々活発に議論が行われております。そんな前例のないテーマへ挑戦したことに拍手を送りたい。今回の公演に関して、実行委員長の菅野光平（人文社会科学部3年）さんは、来場者に、現在の性的少数者が抱える問題を見て、社会がどう変化すべきかを考えていただくきっかけにして欲しいと思い、今回のテーマに選んで、今回の公演を行うこととした。本公演の脚本は、違憲判決が出た札幌訴訟の弁護団の方や東京訴訟の原告の方へ実際に取材を行い、法廷シーンの現実感と性的少数者の日常の描写にも力を入れたとのことでした。今年もまた新たな挑戦を期待したい。また、多くの同窓会員にも公演を鑑賞していただきたいと思う。

(H. O)

百年記念祭（伝統を紡ぎ未来に続く）を終えて

記念祭実行委員会 委員長 高 橋 節（人文2回）

「100年記念祭をすばらしいものに！」という95年記念祭からの申し送りを受けてスタートした百年記念祭でしたが、経過を振り返ると「コロナウイルス感染の拡大と変異による長期化との闘い」に終始した感が否めないところです。

開催に向けた準備は、旧制高校から新制大学までの会員を一同に擁する全国唯一の同窓組織として、これまでの歴史の確認と未来に引き継ぐものにすることをテーマに進めました。まずは、会員に開催方針等を提起するため、過去の記念祭の取組の振り返りから始まり、会員相互の親睦、世代間交流にとどまらず、「地域とともに歩んできた」これまでの歴史を基に市民参加を広く呼び掛けることを基本にしたところです。2017年同窓会総会での実施決定、募金趣意書の会員への発送等とともに実行委員会を立ち上げ本格的な計画策定を開始。同窓会報（特別号）等で計画内容を周知して気運醸成を図り、参加者募集を1年早めて2019年に始めました。

しかし、本格的な作業開始を決定するはずだった2020年4月の実行委員会は、コロナ禍での対応を議論する会合になってしまい、1年の延期、財政計画の縮小を決定する場となりました。

こうした緊急事態を乗り越えながら、しかも一向に収束の見通せない中で、2021年10月30日(土)に県内在住会員に限定した記念式典のみでの記念祭実施とせざるを得ず、忸怩たる思いがあります。

この間、参加を心待ちにしておられた会員の皆様からの理解と協力、さらには支援を賜り誠に有難うございました。心より感謝申し上げます。

以下、計画のあらましと実施状況を報告します。詳細は、掲載写真と総合案内資料集「嗚呼乾坤の」と併せてご覧下さい。

【百年記念祭】

ホテルメトロポリタン山形を会場に開催。

・記念講演（中止）

佐藤夏雄氏（理1回）を講師に迎え、南極越冬体験等を基にした講演を市民参加型で企画した。

・記念式典

県内在住会員に限定した参加で開催し、感謝状贈呈、特別記念論文優秀者及びティーデマン・ふすま賞の表彰等を行った。

・祝賀懇親会（中止）

学生会員の参加、大学サークル活動の演舞等を組

入れるなど会員の世代間交流による懇親祝賀会を企画した。

・寮歌を歌い継ぐ集い（中止）

旧制高校等で愛唱された寮歌を若い世代に引き継ぐと企画した。

【プレ記念祭】

山形県「文翔館」（旧県庁舎）を会場に開催。

・記念資料展

「ふすま同窓会及び大学小白川キャンパス百年の歩み」をパネル製作、展示した。しかし、小白川図書館での学生向け展示及び大学附属博物館での連携企画は中止した。（パネル内容を総合案内資料集に収録）

・ピアノコンサート（中止）

著名なピアノ奏者三輪郁氏（山形大学教授）による市民参加型演奏会を企画した。

・プレ大学祭（八峰祭）（中止）

八峰祭実行委員会と連携し、市民を大学祭に誘う目的で企画した。（大学祭自体も中止）

【記念碑建立等】

・記念碑建立

「ふすま同窓会百年の碑」を大学キャンパス「ふすまの碑」内に建立し、「ふすまの集い」（2021年10月24日(土)）に併せて除幕した。

・記念植樹

ティーデマン先生所縁の「白樺」を山寺立石寺、大学構内等に植樹した。

【特別記念論文の募集】

学部学生を対象に募集し、最優秀賞1篇、優秀賞1篇を選考した。（論文を総合案内資料集に収録）

【記念誌及び写真誌の編纂】

「五十年誌」に続く「ふすま同窓会百年誌」及び写真でたどる「ふすま同窓会百年写真誌」を編纂、発行した。

【学生生活、活動支援】

施設環境を整えることにより、学生会員の生活及び活動を支援することとした。

- ・ふすまリフレッシュルームの整備
- ・催事用テントの贈呈

次回記念祭の開催に向けて記念祭基金の再造成が開始されました。会員相互の連携をさらに深化する取組みを促進しながら、コロナ禍を克服して再びお会いしましょう。

【百年記念祭特集】



会場：ホテルメトロポリタン山形



式典会場：4F「霞城」



検温



連絡先記入



来賓受付



会員受付

【百年記念祭特集】



開式の辞
実行委員長：高橋 節(人文2回)



式辞
同窓会長：野村一芳(人文1回)



司会者
尾崎秀真(人文10回)



祝舞「高砂」：
観世流梅若 高橋栄子師



来賓祝辞：玉手英利学長



来賓祝辞：吉村美栄子山形県知事



来賓祝辞：佐藤孝弘山形市長



功労者感謝状贈呈：坂部印刷株式会社
代表取締役 坂部 登 様
同 窓 会 各 支 部：代表 戸石山形副支部長

【百年記念祭特集】



記念論文受賞者
館林 徹氏（現理学部4年）



ティーデマン・ふすま賞受賞者
豊田龍平氏（現大学職員）、椎野浩也氏（現山大大学院1年）



祝 舞：山形舞子 三番叟ほか



閉式の辞
同窓会副会長：遠藤直幸（理1回）

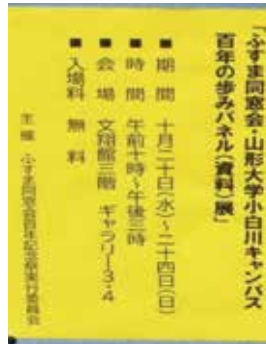


万歳三唱



散会后 見送り風景

【各種記念事業】



資料展：文翔館（旧山形県庁舎）2021.10.20～24開催



白樺の記念植樹（一例）：ふすまの碑前
他に、山寺、理学部中庭、同窓会館庭にも



ふすまりフレッシュルームの開所式
2020.10.24



寮歌祭DVD作成
東京ふすま会



ふすま同窓会百年の碑建碑式
喜びを分かち合う参加者 2020.10.24

新制国立大学山形大学の創設過程

豊田 龍平（人文24回）

本稿は、筆者が2011（平成23）年度末に山形大学人文学部（現在の人文社会科学部）を卒業した後、母校山形大学の事務職員として奉職しながら、2018年度に山形大学大学院社会文化システム研究科に社会人学生として進学し、3年間の在院期間における調査・研究の成果をまとめて2020（令和2）年度末に提出・受理された修士論文の要旨です。

なお、この修士論文の成果が認められ、2021年10月に開催された「ふすま同窓会百周年記念祭」において「ティーデマン・ふすま賞」を受賞することとなりました。野村一芳会長はじめ関係各位に対し、ここに記して改めて感謝御礼申し上げます。

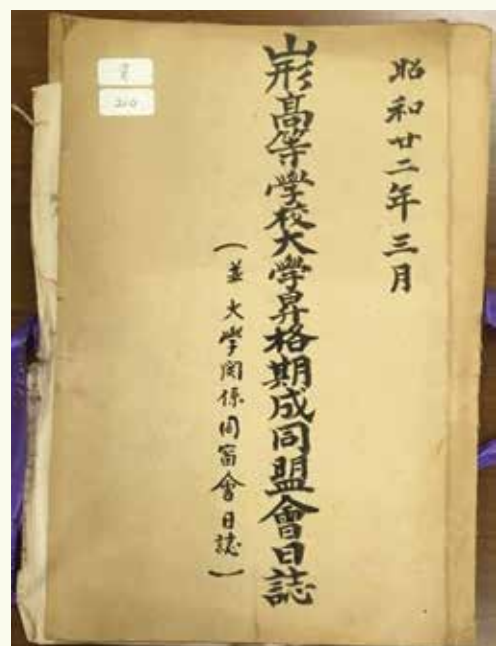
筆者は、この修士論文を通して、1949（昭和24）年5月31日に公布・施行された国立学校設置法により山形県内5つの旧制高等教育機関、すなわち山形高等学校・山形師範学校・山形青年師範学校・米沢工業専門学校・山形県立農林専門学校を包摂した国立大学山形大学の創設過程において、とりわけ1920（大正9）年4月17日付け勅令第110号により設置された山形高等学校の動向及びその役割に注目し、新制国立大学への移行・昇格、再編統合という事態に働いた「力学」の実態を明らかにしようとしてしました。

先行研究では、山形高等学校も含め、旧制高等教育機関が「一県一大学原則」という国家的統合方針に沿って国立大学へと統合された、といった単線的な説明に終始しがちです。それに対して筆者は、山形高等学校の動向には高等学校間や帝国大学、中央との関係性が密接であった、とする立場から、全国高等学校長会議や大学昇格運動をけん引した学校長、主要な運動推進主体である同窓会等の団体、

山形県や文部省、さらにはGHQとの関係について、戦後直後の混乱から大学創設に至る約3年間の展開を先行研究で未だ使用されていない多くの資料を用いて分析と考察とを加えました。

その結果、1）山形高等学校は、生存戦略という「力学」に基づき、当時の設備環境や擁していた教員、教育カリキュラム等から持続可能な大学昇格構想を練り、初期の動向として単独での文理科大学昇格を目指したこと、2）東北大学との合体へと方針転換する際、高橋里美学校長が先導的な役割を果たしたこと、3）「一県一大学原則」公表に先行してGHQ山形軍政部で行われたCIEのイールズによる強力な指導の影響力と高橋学校長辞任の背景に文部省の後押しがあったこと、等の事実が判明しました。

（下は、筆者が翻刻を試みた『山形高等学校大学昇格期成同盟会日誌』表紙（筆者撮影）です。）



博士の愛した山辺町

遠藤 直幸 (理1回)

この度、設立から「百年」を数える「ふすま同窓会報」寄稿させていただけることに感謝申し上げ、折角の機会ですので、私の暮らす山辺町をご紹介しますいただきたいと思っています。



山辺町は、山形県のほぼ中央にあたる山形盆地の西側に位置し、県都山形市の北西に隣接する人口およそ1万4千人の町です。多くの湖沼や河川を有する豊かな自然に恵まれ、産業では、絨毯（じゅうたん）やニットなどの繊維業が盛んで、高い技術力により数々の賞をいただくなど、全国に誇れる繊維業であると考えております。

全国でも「山形のさくらんぼ」といえば有名ですが、これまで皇室へ献上してきた山辺町の「さくらんぼ」は全国有数の品質を誇れるものと考えており、湧き水を利用して栽培される「清流わさび」や山辺産の米で育てた豚肉「舞米豚（まいまいとん）」など多くの特産品もあるので、これを機に山辺町を知ってもらい、山辺ファンが増えることを期待してあります。

また、山辺町は、「世界の良心 常設国際司法裁判所所長 安達峰一郎法学博士生誕の町」として、博士が生まれた町ということをお大切にしています。

安達博士は幼少のころから向上心にあふれ、わんぱくでガキ大将だった少年時代に山辺町にある小鳥海山に登り、山頂に茂る大杉が周囲の樹木より群を抜く大きさに感動し、「あの杉のような大人物になってみせるぞ。」と誓ったといわれています。



安達峰一郎博士

安達博士の生家と敷地は、安達鏡子夫人により「将来の日本を背負って立つ子どもたちのために使ってほしい。」と町に寄贈されました。町では生家を残し、敷地に幼児教育のために「安達峰一郎記念保育所」を建て、小学校入学前の子どもたちが、あかるく元気に遊び活動する場となりました。

保育所は、平成10年に北部地域へ新築移転しましたが、生家の敷地内には「北部公民館」が建てられ、その一室は「安達峰一郎博士資料館」として公開されています。



安達博士の生家



生家雨戸への書

コロナ禍の影響で不安や不便さを感じがちですが、思いやりと支え合い、そして希望を忘れないことが大切です。現在の蜜を避ける生活では、人と人の絆が薄れ気持ちも暗くなりがちです。一日も早い収束を願い、前向きに暮らしたいものです。

コロナの先の新しい未来では、安達博士が愛した魅力あふれる山辺町にお立ち寄り頂きますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、次の新しい百年に向けたふすま同窓会の益々のご発展を祈記念いたします共に、みなさま一人ひとりの幸せを心からお祈り申し上げます。

「ふすま文庫」令和3年6月～令和4年5月

令和3 7.17 亀井勝一郎人生論 1～8巻、別巻 1, 2 …………… 亀井勝一郎(同窓生寄贈)
 9.24 青春風土記(旧制高校物語) 1～3 その他 …………… 週刊朝日編(宮城洋三寄贈)
 10.11 同窓[ふすま会]100年記念 平清水寮作品集 …………… 黒田多聞(黒田多聞寄贈)
 12.15 逆走 …………… 小坂光一(小坂光一寄贈)
 令和4 5.30 史観物語 武蔵燃ゆ …………… 高垣直澄(野村一芳寄贈)

各学部の退職教員

・人文社会科学部グローバル・スタディーズコース
 佐藤 清人教授 (令和4.3.31)

・理学部生物学分野
 品川 敦紀教授 (令和4.3.31)
 半澤 直人教授 (令和4.3.31)

深 悼

心からご冥福をお祈り申し上げます
 (令和4年5月31日まで受付分)

山高19回文甲	齊藤 義一	03.12.14	山高27回文乙	後藤 信而	04.03.30	文理8回・文・歴史	有川美佐子	02.11.30
山高20回文甲	沢 三郎	02.07.01	山高27回理科	山田 玄彦	02.04.13	文理8回・理・物理	木村 保	02.09.18
山高21回文甲	涌田 浩美	30.10.12	山高27回理科	佐藤 幸二	02.02.25	文理8回・理・物理	渡邊 清	03.01.20
山高22回理甲	三上 勇	03.06.18	山高28回文乙	佐藤比呂志	03.12.08	文理10回・文・国文	落合 晃	04.06.05
山高22回理甲	伊東 孝一	02.05.30	山高28回理科	齊藤 隆雄	03.12.27	文理11回・文・法律	安井 司	31.06
山高22回理甲	鈴木 震	02.06.18	山高28回理科	熊坂 高弘	03.01.08	文理13回・文・経済	石山 雅信	04.01.24
山高23回理甲	渡邊 健	02.06.13	山高28回理科	高橋 欣一	03.03.08	文理17回・文・歴史	金森 定博	02.10.31
山高23回理乙	香田 繁雄	02.10.13	山高28回理科	林 茂夫	03.04.19	文理18回・理・化学	山田 明彦	03.03.01
山高23回理乙	片山誠二郎	01.05.04	山高29回文甲	船山 栄一	02.10.25	人文2回・経済	笹原 道盛	04.01.29
山高24回理甲	中原 正紀	03.04.01	山高29回理科	小原 郁子	03.04.20	人文8回・哲学	島田 節子	30.12.02
山高25回文乙	工藤 正美	02.07.28	文理1回・理・生物	斎藤峯晃達	03.09.13	人文8回・哲学	遠藤 憲一	不明
山高25回理甲	風戸 正巳	03.04.01	文理3回・理・地学	工藤 浩	03.06.06	人文20回・経済	山田 弘志	04.01.16
山高25回理甲	増田 敏男	02.09.20	文理4回・文・経済	新野 恒夫	03.05.19	理2回・物理	小山 一	02.03.11
山高25回理甲	日野 泰彦	02.	文理5回・文・経済	堀米 勝栄	02.02	理2回・物理	戸羽 茂	02.04.15
山高25回理乙	山口 博三	03.06.22	文理5回・文・経済	芳賀 越夫	01.10	理6回・物理	小原 正男	03.12.22
山高25回理乙	片野嘉一郎	04.03.03	文理55回・文・英文	篠田 州雄	03.06	理10回・物理	中西 貞次	02.10.11
山高26回文甲	石澤 博司	04.01.03	文理8回・文・経済	半田 実	03.04.29			
山高27回文甲	齋藤 精也	02.10	文理7回・文・英文	阿部 忠喜	02.10.06			
山高27回文乙	大山 博	01.02	文理8回・文・経済	齊藤 圭造	04.05.10			

以上 54名

本部事務局通信

昨年10月には1年遅れの「百年記念祭」が、今年5月には、3年ぶりの「総会」が開催されました。残念ながら、共に祝賀懇親・交流の無い内容となってしまいましたが、出席いただいた会員の皆様には心より感謝申し上げます。

さて、会員の交流や活動拠点となっている我が同窓会館は、雨漏りこそありませんが、いろいろと傷みが見られるようになりました。(屋根・樋・壁の劣化等)

同窓会館は、50・60年記念祭による積立金と平成2年の70年記念祭での会館整備募金により中古住宅付き用地を取得、同4年には玄関と事務所棟の増築を行いました。同13年には、80年祭の醸金で、会議・交流に活用していた中古住宅(畳敷き)を解体、会議室棟を新築して、現在の会館の姿となっております。

事務所棟は、建設後30年を経過し、前述のような傷みの現状を踏まえ、先の総会で、百年記念祭の剰余金活用案の一つとして会館補修を提示させていただきました。

(記念祭事業が大幅に制限されたことから剰余金が生じたので、募金時に計画していた同窓会館の補修を行うものです。)

事務室等の主な補修工事の内容は、下記のとおりです。

①事務室の床の嵩上げ(14cm)

同窓会館の床の高さが、玄関・事務室：会議室ごとに違うため転倒事件も発生。今回、安全対策として、この段差を一部解消します。

②会館の屋根・外壁全面塗装等

なお、敷地内にある赤レンガの炉につきましては、その一部を会館玄関わきに移し、山高時代からの歴史を偲ぶものとしします。

今年8月中旬の完成を目指します。何卒よろしくご協力をお願いします。(会館は通常通り開館。)なお会館の3本の常緑樹(玄関向かって、右：キンモクセイ、中央・モチノキ、左：イチイノキ)は植栽当時のままで、現在・過去・未来の同窓会活動を見守り続けてくれます。伝統を紡ぎ未来に続く！

事務局長 阿部慎一(人文4回)

広報部員のつぶやき

「自分のような価値のない人間が生きていいのだろうか」と子どもの頃から思ってきた。しかし就職して今の仕事に出会い、自分のような人間でも、誰かの役に立てること、努力すれば、もっと役に立てることを知った。それが分かるまでは、慣れない仕事でつらいこと、苦しいことがたくさんあった。でも逃げないで向き合っていくうち、自分の仕事の意味が分かり、仕事が楽しくなり、自分のことも少しは見直せるようになった。これから社会に向かう、一人でも多くの学生に、そんな仕事と出会ってほしい。そして、つらさや苦しさ逃げずに向き合い、乗り越えた人だけが見える風景を見てほしいと思う。

坂本由美子(理28回)

何年か前の話であるが、確かラジオで次のようなことを言っている人がいた。「五月晴れとは本来梅雨の晴れ間を指す言葉です」とのこと。五月(新暦)のよく晴れた日、「今日は全国的に五月晴れで運動会日和でした」というニュースが流れることがあり、実は私、「五月晴れ」をこのように理解していた。自分の浅はかさに愕然。

デジタルトランスフォーメーションも大事であるが、旧暦の生活環から見えてくるものがたくさんありそうである。

渡辺雄二(理14回)

コロナウィルスが変異を繰り返し、感染力は上がったが致死率は下がった。

欧米諸国はマスクを強制しない共生社会へ移行し、日本でも議論が始まる。

東南アジアなどでの流行により工場閉鎖や物流停滞が続き、日本の経済や我々の生活にも影響を与えている。

卑近な例では、新車や家電製品の納期遅延等だが、困るのが使っている機器の故障で交換部品が手当てできず修理できない時。冬のボイラー、暖房などは命に係わる。

早く経済活動の正常化が実現してほしいものである。

片岡卓爾(理5回)

私は2006(平成18)年から16年間にわたり、会報の編集を担当して来ました。その間、同窓会長は鈴木氏、長沼氏、そして現在の野村氏と三代目となりますが、本誌の体裁や内容も大幅に変わりました。紙面はモノクロ刷り「縦書き」からカラー刷り「横書き」となり、他に、ホームページの新規立ち上げ、会費納入者への機関紙「ふすま通信」の創刊に携わっております。

コロナ禍で遅れていた百年記念祭も昨年、無事終了したので、この度、太田氏に役目を引き継ぎましたが、新しい感覚で広報部門が充実発展するものと大いに期待しております。

松田博之(文理13回)

編集後記

第70号をお届けいたします。今回は百年記念祭がコロナ禍の影響で1年延期して昨年行われ、記念祭関係の記事にスペースが多く割かれています。今回より、松田さんに変更編集に携わるようになりました。会員の皆様方のご寄稿をお待ちしております。どのような内容でもかまいません。紙面作成にご協力よろしくお願い致します。

太田裕士(理1回)

ふすま同窓会報 第70号

発行者／ふすま同窓会 山形市東原町1-9-4

電話・FAX／023-633-9927

<http://www4.plala.or.jp/fusuma/>

E-mail:fusumadosokai@yahoo.co.jp

発行日／令和4年7月1日

印刷所／坂部印刷株式会社